

岐阜県防災キャンプ推進事業 実施報告書



平成 2 8 年 3 月

岐阜県

目次

● 事業の趣旨	1
● 開催実績	1
● 運営体制	2
● 実施内容	
① 岐阜地域プラットフォーム【岐阜市】	3
② 中津川地域プラットフォーム【中津川市】	7
③ 参加者の声	10
● 防災キャンプの普及啓発	11
● 地域プラットフォーム形成についての成果と課題	13

事業の趣旨

学校等を舞台に、学校や地域社会、関係機関等が協力して、防災キャンプを実施することによって、防災の大切さを実感する。また、共通の体験を通して地域の一員としての自覚を育てることによって、地域プラットフォームの形成に資する。

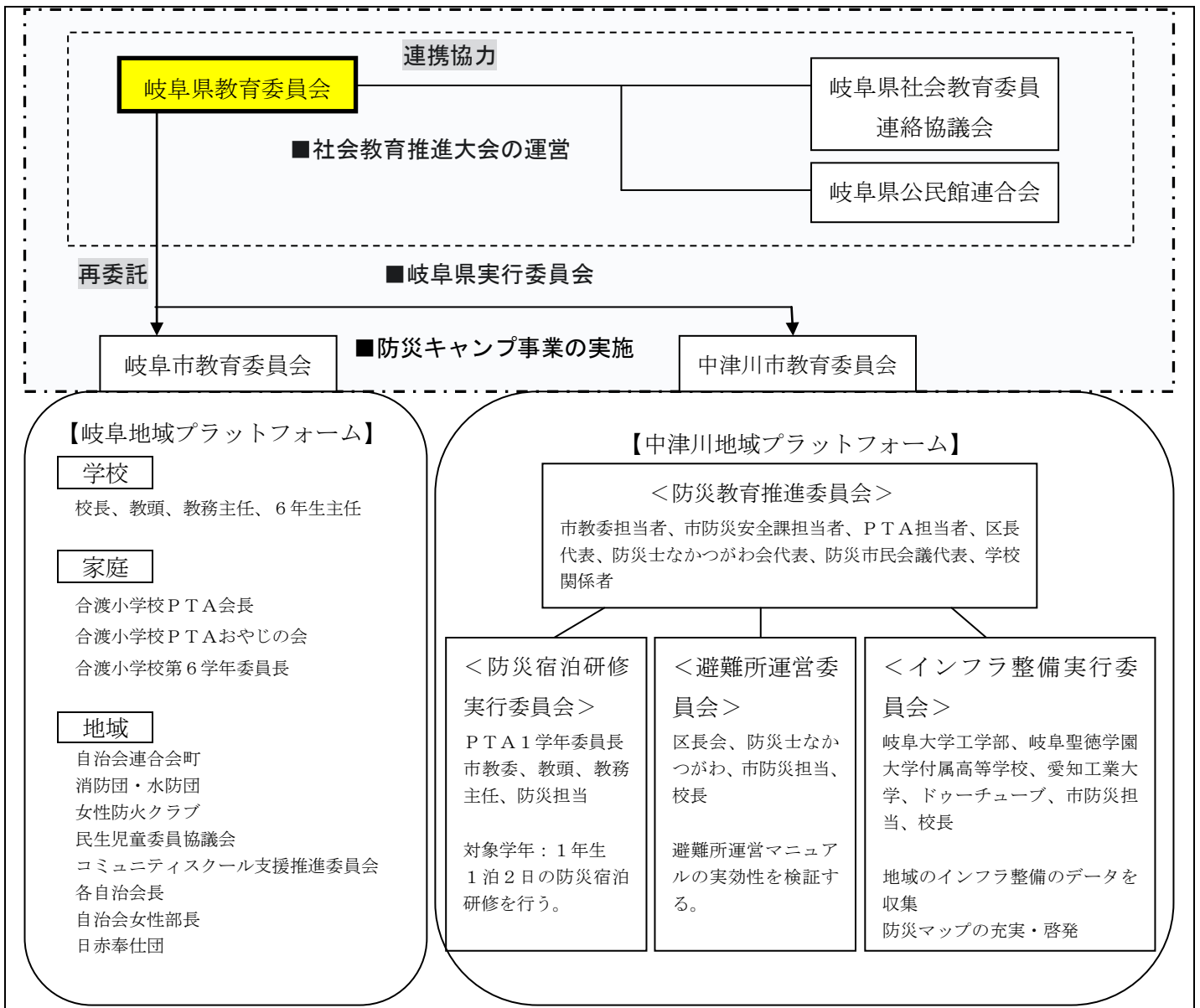
また、防災キャンプの実践を学校教育・社会教育関係者に広く周知することを通して、防災教育の推進と地域の防災活動の充実、および地域プラットフォームの形成の促進を図る。

開催実績

月 日	内 容
4/9 (木)	事業日程の調整及び運営体制の検討【中津川市】
5/20 (水)	防災のための地域プラットフォーム形成のための委員会①【中津川市】
6/10 (水)	防災キャンプ準備委員会【岐阜市】 ・事業説明、日程・役割の確認、意見交流
7/3 (金) 7/4 (土)	防災キャンプin合渡【岐阜市】
8/24 (月)	防災のための地域プラットフォーム形成のための委員会②【中津川市】
10/2 (木)	岐阜県社会教育推進大会 ・全体会で「岐阜県防災キャンプ事業」について発表
10/5 (月)	防災のための地域プラットフォーム形成のための委員会③【中津川市】
10/22 (木) 10/23 (金)	坂本中学校区防災宿泊研修【中津川市】
12/18 (金)	防災宿泊研修スタッフ反省会【中津川市】



運営体制



<再委託先詳細>

委 託 先	岐阜市教育委員会	中津川市教育委員会
委 託 先 住 所	岐阜市今沢町18	中津川市栄町1-1
再委託の範囲	防災キャンプ実施	
再委託の必要性	市町村が実施することで、学校と地域の連携が図られ、より高い普及・教育効果が期待できる。	

実施内容

①岐阜地域プラットフォーム（岐阜市）

【活動名】

防災キャンプ in 合渡

【活動趣旨】

近年、巨大地震の発生、局所的な集中豪雨など自然災害への備えが重要視されている。一方、超高齢化社会や低迷する経済情勢により、公共建設に充てられる財源が大幅に不足しているため、ハード面での対策がままならない状況にある。このような背景から、かつては「防災」と呼ばれていた対策に加え、ソフト面での対策に重きを置く「減災」の重要度が増している。減災の一端を担う防災教育は、子から親へ、親から地域への自助・共助を促進し、人的被害を抑制する効果が期待できる。

今回の防災キャンプでは、「洪水被害から命を守る」合渡地域の水害との戦いの歴史、9.12災害での教訓について学ぶとともに、水害や地震から命を守るための体験的な防災教育プログラムを実施することにより、自助・共助・公助の意識を高め、地域の防災力を高める。

岐阜市では、コミュニティ・スクールの導入により、地域と共にある学校の基盤ができつつあり、保護者が学校の教育活動にこれまで以上に参加しやすい土壌もできつつある。そこで、学校と家庭・地域とが、連携して行う防災教育をさらに促進し、防災に関する情報や知恵を共有し、校区の防災力を高めていく。

【実施日】

平成27年7月3日（金）～平成27年7月4日（土）

【実施場所】

岐阜市立合渡小学校（岐阜市寺田1番地1）

【参加範囲】

合渡小学校6学年児童及びその保護者と地域住民

【参加人数】

283人（合渡小学校6学年児童67名・保護者48名・地域住民168名）

【プログラム】

日時	プログラム	プログラム詳細
7月3日（金） 9:00～ 9:15	開会式・ガイダンス	・2日間の「防災キャンプ」に対する願いを確認する。
9:30～ 11:30	災害図上訓練（DIG）	・自然条件から見た校区のもつ水害の危険度の高さを把握するとともに、安全な避難の仕方を考える。 ・危険箇所を図上で確認し、安全に避難するために考えたことを全体で交流する。
11:45～ 12:15	振り返り①	・午前の活動の振り返りをする。
12:15～ 13:30	昼食（給食） 休憩	

13:45～ 15:15	救急救命講習	<ul style="list-style-type: none"> 心肺蘇生の方法やAEDの活用の仕方を覚える。 「あっぱくん」を使った実習を行う。
15:30～ 16:45	着衣泳	<ul style="list-style-type: none"> 浸水時の歩行の困難さや危険性について、体験を通して理解する。 水流の中や長靴を履いて水中歩行体験をする。
17:00～ 18:00	避難所設営	<ul style="list-style-type: none"> 備蓄庫から避難所に必要なものを搬出し、避難所を設営する。 簡易トイレやダンボール間仕切りの設営の仕方を見学する。
18:15～ 19:30	夕食 片付け・休憩	<ul style="list-style-type: none"> 避難所での食事の不便さを体験する。 保護者・地域住民による炊き出しを行う。
19:45～ 20:45	夜間避難訓練 (緊急地震速報①)	<ul style="list-style-type: none"> 地震を想定した「命を守る訓練」を体験する。 「緊急地震速報」を聞き、懐中電灯を使って班ごとに運動場に避難する。
20:45～ 21:15	振り返り②	<ul style="list-style-type: none"> 午後からの訓練の振り返りをする
21:15～ 22:00	就寝準備	<ul style="list-style-type: none"> 毛布・タオルケット・タオル等を準備する。
22:00 22:15～	就寝 (緊急地震速報①)	<ul style="list-style-type: none"> 就寝時間後に「緊急地震速報」対応の訓練を行う。 体育館の安全な場所を見つけ、素早く避難する。
7月4日(土) 6:00～	起床	<ul style="list-style-type: none"> 起床後、身支度を整える。
7:30	避難所閉鎖・片づけ 朝食準備	<ul style="list-style-type: none"> マットやダンボール、個室用テント等を片付ける。 片付けが終わったら、朝食の準備をする。
7:30～ 8:15	朝食	<ul style="list-style-type: none"> 水道・ガスが出ない想定での簡易朝食の準備や試食を通して、非常食備蓄の重要性を理解する。
8:30～ 9:00	ラジオ体操の集い	<ul style="list-style-type: none"> ラジオ体操をとおして、心身をリフレッシュする重要性を理解する。 終了後防災サミットの準備をする。
9:00～ 9:15	休憩	
9:15～ 10:15	防災子ども サミットin合渡 (グループ討議)	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方々と、防災キャンプで学んだことを交流し、各学級で「合渡子ども防災宣言」案をつくる。 合渡地区のみんなの命を守る、災害被害を防ぐ、減らすために、どんなことが大切かを話し合う。
10:25～ 10:45	防災子ども サミットin合渡 (全体交流)	<ul style="list-style-type: none"> 学級案を交流し、「合渡子ども防災宣言」を決定し、地域の方に発表する。
11:00	閉会式	<ul style="list-style-type: none"> 2日間の「防災キャンプ」で学んだことを交流し、家庭や地域で実践しようとする意欲を高める。

【成果】

- ・家庭や地域の方々が自主的にDIG訓練の研修を行うなど、防災の意識を高めることができた。
- ・学校・家庭・地域との連携が深まり、地区の防災訓練などを充実させる動きがみられるようになった。

【課題】

- ・家庭や地域の方が参加しやすいように内容や方法などを工夫していく必要がある。



災害図上訓練 (DIG)



救急救命講習



着衣泳



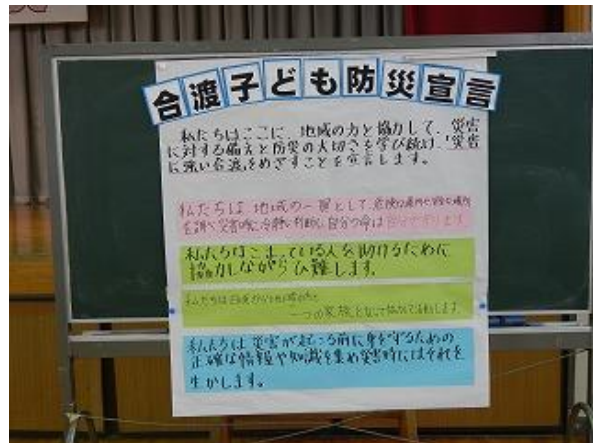
保護者・地域住民による炊き出し



避難所設営



「緊急地震速報」対応の訓練



合渡子ども防災宣言



防災子どもサミット in 合渡
(グループ討議)

①中津川地域プラットフォーム（中津川市）

【活動名】

坂本中学校区防災宿泊研修

【活動趣旨】

- ①避難所体験を通して、避難所でどのような活動ができるのか。また、どのような不便さがあるのかを知り、防災リーダーとしての心構えをつくる。
- ②中学生とともに地域住民が地域の危険箇所や防災設備の様子を確認することを通して、地域ぐるみの防災意識を高める。
- ③防災宿泊研修の活動を通して、一人一人が『自分も学年や学級のメンバーの一人である』という所属感をもつ。

【実施日】

平成27年10月22日（木）～平成27年10月23日（金）

【実施場所】

中津川市立坂本中学校（中津川市千旦林1386-1）

【参加範囲】

中津川市立坂本中学校1年生及び、地域住民、大学関係者等

【参加人数】

203名（1年生139名・教員11名・地域住民18名・大学関係者35名）

【プログラム】

日時	プログラム	プログラム詳細
10月22日（木） 8:45～ 9:35	<防災宿泊研修1日目> 宿泊研修ガイダンス	※協力団体：岐阜大学工学部 岐阜聖徳学園大学 愛知工業大学 ドゥーチューブ ・学活 各教室にて08:45～09:05 学年集会 09:15～09:35
9:45～ 10:35	命を守る訓練	・想定：大地震発生 全校生徒実施
10:45～ 11:15	開会式（全体会） ○想定：震度7の大地震に見舞われ 避難所に避難してきた。不自由だが、明日の午後まで生活しよう。	①はじめの言葉 ②生徒代表の話 ③校長の話 ④連絡（学年主任等） ⑤終わりの言葉
11:15～ 12:35	避難所運営ゲーム(HUG)	・指導：校長
13:30～ 18:00	防災オリエンテーリング (生徒による地域防災点検)	・学校周辺の施設、危険箇所を点検し、地図に記入しながら地域を回る。集めた情報を交流する。 地図への記録や画像を印刷しまとめる。 【準備する物】各班に地図、デジタルカメラ 指導：岐阜大学工学部 岐阜聖徳学園大学

18:30～ 19:30	避難所夕食体験 (パッククッキング)	愛知工業大学 ドゥーチューブ ・ガスコンロ・大鍋を利用して訓練を行う。 湯を沸かし、焼きそばとα米を温め夕食をとる。 体育館内でグループごとに夕食をとる。 【準備する物】焼きそば、もやし、シーチキン、α米 指導：地域の防災士
19:30～ 21:00	避難所宿泊体験 (避難所パーティション設営演習)	・体育館にダンボールにて避難所パーティションの設営をする。就寝の準備をする。
21:00～ 21:30	学級ミーティング	・何を感じたか、困ったこと、問題を解決する方法 中学生ができること、日頃から準備しておくこと など、一日を振り返り学習をまとめ交流する。
22:00	消灯	
10月23日(金) 6:00～ 6:30	<防災宿泊研修2日目> 起床、洗面	・健康チェック
6:30～ 8:30	学年朝の会 避難所朝食 片付け	・非常食が届いたという設定で行う。
8:30～ 11:30	災害図上訓練(DIG)	・地図を使って災害訓練を行う。 前日の点検結果を利用して行う。 【準備する物】地図、マジック 指導：岐阜大学工学部 高木教授
11:30～ 12:30	閉会式(全体会) 片付け	①はじめの言葉 ②指導者より講評等 ③生徒代表挨拶 ④校長挨拶・お礼 ⑤学年主任より
12:30～ 13:00	避難所給食	・全校避難所給食 フリフリおにぎり・豚汁等
13:15～	終わりの会 下校	

【成果】

- ・防災宿泊研修の体験を通して、生徒は体育館が避難所となった場合の食事や宿泊の仕方を具体的に学習し、防災リーダーとしての心構えをつくることができた。食事については、パッククッキング(ビニール袋を使用した焼きそば調理)の方法を学習したり、災害時の給食を体験したりすることができた。また、学年全員で体育館に宿泊することにより、様々な不便さや集団活動の大切さを実感することができた。
- ・食事の準備や地域のインフラ点検では、地域の防災士や交番友の会の積極的な支援を得ることができた。中学生と地域住民が一緒に取り組むことを通して、「地域ぐるみの防災意識」を高めることができた。また、岐阜大学、岐阜聖徳学園大学、愛知工業大学の職員と学生の参加により、防災についての最新の知識を習得するとともに、地域のインフラ点検や災害図上訓練などを円滑に進めることができた。
- ・防災をテーマとして、地域、大学関係者、防災士等との連携を図ることができた。さらに、防災宿泊研修を体験した中学1年生が、坂本小学校の5年生の児童に研修内容を報告することにより、小学生の防災意識も高めることができた。
- ・防災宿泊研修を通して、学級委員会を中心に学年の自治力を高めることができた。また、研修中の学

級反省会により、一人一人の生徒が学級への所属感を高めることができた。

【課題】

- ・学校が主体となり、地域の方々に協力・参加していただく形で防災宿泊研修をしたが、今後は避難所運営委員会が主体となって実施し、生徒が参加するという実際の避難所運営に近い形での実施が必要である。学校が避難所となった場合の設備・備品の充実が急務である。



避難所設営ゲーム（HUG）



パッキングの様子
（避難所夕食体験）



終わりの会

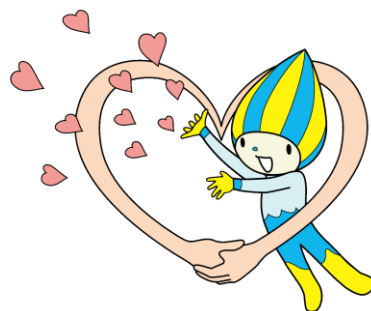
③参加者の声

【岐阜地域プラットフォーム】

- ・災害時も地域の人と協力して素早く準備したい。(小6・女子)
- ・ぬれた服が重くて動きにくかった。実際の災害の時にはもっと大変だと思うので、落ち着いて行動したい。(小6・女子)
- ・今回の事業は防災を学び、地域の方々と関わることができる一石二鳥の活動であり、有意義なものであると思う。このように地域と関わる機会を多く作り、学校と地域の垣根が低くなるといいと考える。(保護者・男性)
- ・災害が起こった時に「助けられる側」だけではなく、自分には何ができるかを考え、「助ける側」にもなることができる。地域の存在を意識して、防災を学ぶことができるのは、このように地域の方が多く参加しているからこそであり、学校単独では難しい。地域に関わることで子どもたちが地域を意識した防災意識が形成できたと思う。(保護者・女性)
- ・今回の活動は、自治会等の関係者、子どもが学校のことをよく話す家庭では認知されていると思うが、家庭に子どもがいないと知らなかった人が多いのではないかと思う。口コミ、広報で広めていく必要があり、周知を積極的にしていくといいと思う。(地域住民・女性)

【中津川地域プラットフォーム】

- ・東日本大震災の時は今回よりも多い人数に対して実際に難所運営をしていたかと思うと凄いと思った。今回訓練を通して改めてわかった。(中1・女子)
- ・このような活動はきっと今後役に立つのではないかと思う。いざという時には遅いので、日頃からこのような活動を通して協力できるネットワークも作れるとよい。(地域住民・女性)
- ・災害に備え、実際に災害が起こった時に避難所となる学校を舞台に、できる限り地域で防災を行っていくのが重要と考える。また災害が起こってから防災を意識するというわけにはいかないのので、各地域で格差がないように様々な地域で自分の命を守る訓練を行っていくべきであると考えている。また防災に限ったことではなく、地域の人たちで作られるネットワークは、いろんな場面で必要になると思っている。(地域住民・男性)
- ・1回で終わらず、段階を踏んでレベルアップしていけるといいし、これを機に防災意識が高まっていくといい。今回地域を歩いた目線でこれからも地域の方と接してほしいし、地域の方々に学んだことを広めて行ってほしい。(地域住民・女性)



防災キャンプの普及啓発

【活動名】

岐阜県社会教育推進大会

【趣旨】

社会教育としての「防災キャンプ」の成果を確認し、今後の防災に対する備えや事業の実施を通して形成された地域プラットフォームについての事例を報告することで地域づくりについて提案する。

【実施期日】

平成27年10月2日（金）

【実施場所】

パロー文化ホール（岐阜県多治見市十九田町2-8）

【参加人数】

490名

【参加対象】

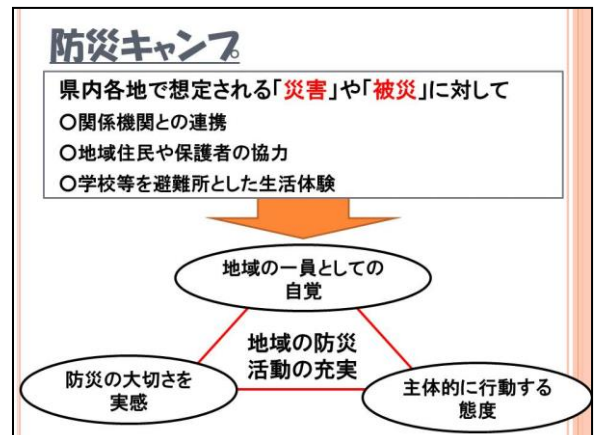

行政(教育委員会等)関係者、学校関係者、公民館関係者、社会教育団体関係者 等

【内容】

全体会で、防災キャンプに関する実践発表を行った。

防災教育
災害に適切に対応する能力の基礎を培う

- 自然災害等の現状、原因及び減災等についての理解
⇒「的確な思考・判断に基づく適切な意思決定や行動選択」
- 地震、台風の発生等に伴う危険を理解・予測
⇒「自らの安全を確保するための行動」、「日常的な備え」
- 生命の尊重、安全で安心な社会づくりの重要性を認識
⇒「学校、家庭及び地域社会の安全活動に進んで参加・協力・貢献」



社会教育推進大会 県教育委員会プレゼンテーション資料

岐阜県防災キャンプ推進事業

防災キャンプin合渡

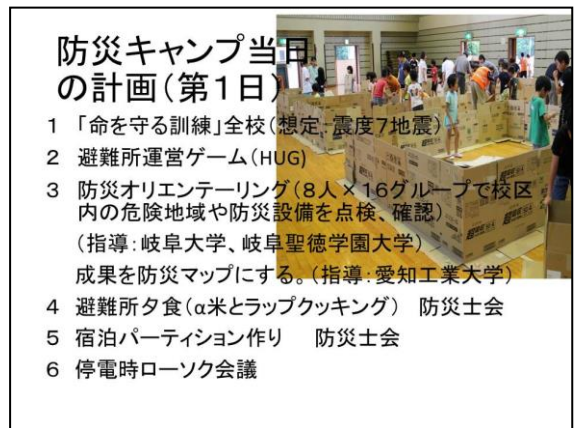
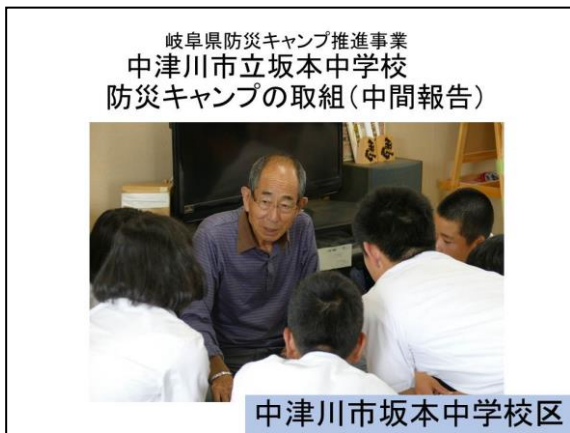


岐阜市 合渡小学校区

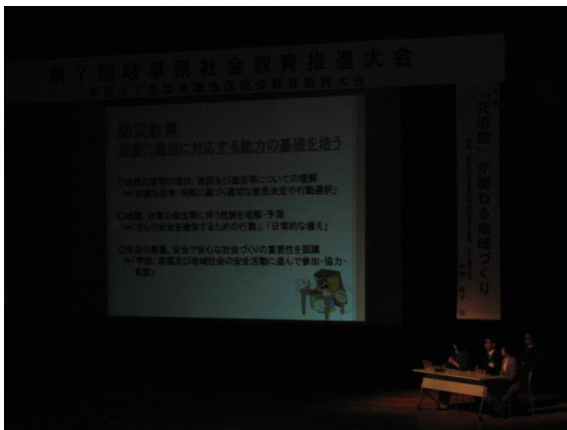
趣旨

▶合渡小学校を避難場所と想定した防災キャンプを、学校・家庭・地域とが連携して実施することにより、防災に関する情報や知恵を共有し、地域の防災力を高めていく。

社会教育推進大会 岐阜市プレゼンテーション資料



社会教育推進大会 中津川市プレゼンテーション資料



社会教育推進大会 発表の様子



地域プラットフォーム形成についての成果と課題

【成果】

①連携の深まりと地域への広がり

＜県社会教育推進大会の全体会における事業報告＞

- ・今年度の事業事例や事業効果を県内社会教育関係者約500名に報告し、地域ぐるみで体験的な防災教育プログラムを実施する必要性を示した。

＜事業実施後の地域の自主的な取組＞

- ・事業を実施した岐阜市合渡地区では、事業実施後も、継続して地域における防災訓練を行っている。11月21日（土）には規模を拡大し、児童を含め約800名程度の住民参加による新たな被災状況を想定した訓練を行った。

＜地域への広がり＞

- ・事業実施地域以外にも、事業実施地域の事例を参考に地域ぐるみの防災訓練を行った地域がある。事業実施により、地域連携のノウハウが県内に広がりつつある。

②参加者意識の変化

＜子どもの意識の変化＞

- ・「合渡子ども防災宣言」において、児童が家庭や地域に向けて「私たちは、地域の一員として危険な場所や安全な場所を調べ、災害時に冷静に判断し、自分の命は自分で守ります」、「私たちは困っている人を助けるために協力しながら避難します」、「私たちは、日頃から地域の方と一つの家族となって協力して活動します」、「私たちは、災害が起こる前に身を守るための正確な情報や知識を集め、災害時にはそれを生かします」の4つの宣言を行い、児童たちが地域の一員として行動できることとして発信することで、自助だけでなく、共助の意識を新たに持つことができた。

＜地域住民の意識の変化＞

- ・参加者からは、「学校と地域の連携を意識したより学びのある実践的な体験活動の重要性を再認識し、今後も地域住民としていざという時に協力することができるネットワークを作っていく必要がある」という意見を多く聞いた。

③専門家の協力による知識の習得

＜地域の現状に即した知識の習得＞

- ・日頃から地域防災において中津川地域で活動している「防災士なかつがわ会」による指導のもと、地域の一員として被災時に自分たちにもできるパッキングや避難所パーティション設置演習等を体験し、実際に役立つ知識と技能を身につけた。

＜研究機関による最新の防災知識の習得＞

- ・岐阜大学、岐阜聖徳学園大学、愛知工業大学などの研究機関から専門的な防災情報の提供や指導を受け、地域のインフラ点検や災害図上訓練などについて実践的な体験活動を効果的に進め、地域住民の連携の在り方を確認することができた。

④小中連携の充実

- ・事業を実施した中津川市坂本地区では防災キャンプ実施後、中学生が校区の小学校児童に対し、事業を通して学んだことを伝え、児童の防災意識を高めた。「地域ぐるみの防災意識」を広めるきっかけとなった。

【課題】

＜実施拠点の設定＞

- ・本年度、学校や教育委員会が主体となってプログラムを計画・実施したが、学校における児童生徒の活動が中心となり、そこに地域住民が参加するという内容が多かった。今後地域住民が中心となり、関係機関の参加や連携を促進していくためには、公民館等を活動拠点とした実施が不可欠である。

【今後の地域プラットフォームの方向性・取組】

①事業成果の周知

- ・防災キャンプを通じたプラットフォーム形成に関する事業成果をより多くの県民に周知するため、発表の機会の効果的な場を検討し、各地域の自主的な活動を促進する。

②実施場所の多様化

- ・本年度実施場所の拠点となっていた学校から、地域住民により身近である公民館等にすることで、多くの地域住民の参加を促し、主体性をもって体験活動ができるようにする。

③専門知識の研修

- ・主に各地域の社会教育関係者が集まる研修会等において、地域におけるプラットフォーム形成促進のための研修を行い、広めていく。

本報告書は、文部科学省の平成27年度委託事業として、岐阜県教育委員会が実施した平成27年度「子供と自然をつなぐ地域プラットフォーム形成支援事業（防災キャンプ推進事業）」の成果を取りまとめたものです。

岐阜県防災キャンプ推進事業実施報告書

編集・発行 平成28年3月

岐阜県教育委員会 社会教育文化課

〒500-8570 岐阜市藪田南2-1-1

TEL:058-272-8754 FAX:058-278-2824

E-Mail:c17768@pref.gifu.lg.jp